



い き い き

小 富 士 っ 子



R 4 学校便り No. 21

令和 4. 1 1. 3 0

四国中央市立

小富士小学校

## 性的マイノリティについて

### みんなで考えました

22日、人権・同和教育保護者学習会が行われました。今年は、「性的マイノリティに対する偏見や差別の解消」に向け、まずは、知ることを大切に学習会を行いました。保護者の方の関心の高さが、3班に分かれての協議や感想でも感じることができました。

ほんの一部ですが感想を紹介します。



自分自身の子どもが、同性を好きになったときにどういう反応ができるのだろうかと思うと同時に、こういった世間の流れがある中で、まだまだ変わっていく必要があると感じています。子どもを育てる立場として、広い考え方を持って、柔軟な対応をしていきたいと思えます。今後もこのような機会があればよいと思えます。

私たちが子どもころは、ランドセルが黒と赤の時代だったので、もちろん今のような性的マイノリティについて学ぶ機会はありませんでした。学べば学ぶほどこれまで知らずに誰かを傷付けてきたのではと不安になります。「自分らしく生きる」を誰もが実現するために、LGBTQについて学び、自分とは違った価値観を持った他者を認め、共生していくことがとても大切だと思いました。ビデオの主人公のように誰にも打ち明けられずに一人で苦しむ子がないように大人も学ばないといけないなと思いました。

中学校の参観で先に少し親子で学んでいたこともあったのですが、改めて理解し合う環境、仲間を増やしていくことが大切だと感じました。色も「かわいい=女」「かっこいい=男」などのイメージも子どもたちにはまだまだあるので、身近なところから「自由だよ」というメッセージを伝えていけたらいいなと思いました。

私は外見だけで「女性」または「男性」に区別する中で育ってきました。からだの性、こころの性、表現する性が同じで、好きになる性は自分と反対の性が当たり前という考えの環境です。最近になって、LGBTという言葉がいろいろところで取り上げられ、性の多様化が認められ始めました。今まで公になっていなかっただけで、悩んでいる人もたくさんいたんだろうなと思いました。今日みたいに勉強して「知る」ということが大切だと思いました。

まだまだ「男」「女」で区別されることが多い世の中で、小中学生から学ぶ環境が少しでも増えるといいなと思いました。小さなころから正しい知識を身に付けることで、「男」「女」で区別するのではなく「人」として関わるができると思うので、今はまだまだ理解されにくいことが理解される世の中に変わるのではないかなと思いました。今は、認められにくい少数者の方たちも堂々と生きていける世の中に一人一人が少しずつでもできることをし、それぞれの個性を認められる世の中にできたらいいなと思います。

子どもは、正直な分、思ったことを口に出してしまう。しかし、正しいことを学べば、吸収する力は大人の何倍もある。大人の方が変わるのが難しいと思うが、まず知ること、そして少しずつ変わり、周りも変えられるくらいになればと思う。昔の当り前は、今の当り前ではないことを理解して行動したい。

感想を読ませていただくと、保護者の方が自分を振り返り、自分事として考えてくださっていることがひしひしと伝わってきました。ありがとうございました。これからも共に学びたいと思えます。

ご参加、ありがとうございました。

